

岡崎嘉平太記念館



Vol. 25

だより

進歩を求めて不断の努力―私の技術論（一部抜粋）

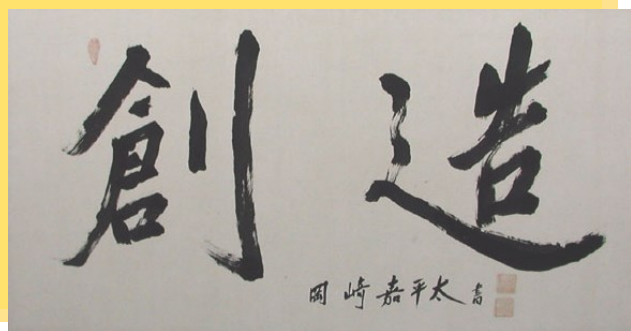
技術というものは、つねに進歩を考えていかなければならない。一日おこたれば一日遅れをとる。事実、新製品は毎年のように更新されて生まれかわっている。科学の粋をあつめた飛行機のようなものも、かつてはプロペラで終わりだと思われていた。ところがジェットエンジンが開発されて、いまのところこれを改良することで精一杯である。そこで私は「第三の動力をみつけてこなければならぬ」と言っているのである。

プロペラは竹とんぼからの発想であり、ジェットは海中のイルカの泳ぎがヒントになった。そうだとすると、第三の動力も自然のなかでみつかるはずである。

ロンドンの地下鉄は、テムズ河の底を通らなくてはならないので、ずいぶん深く掘られた。そのときに、掘った土をどうやって地表に運び出すかが問題になったが、ある技師が朽ちかけた船の船板を食べている舟虫の穴の掘り方にヒントを得て、後足であとへ蹴り出すような装置を考えたところ、大きな成果をあげた。モグラにしても、狐にしても後足を使うが、舟虫の観察から思いついた、というところに、普段の観察がいかに大切であるか、ということ知らされる。

（中略）技術を振興しようと思ったら、研究費をけちつてはいけぬ。（中略）才能のひらめきというものは、そうしよつちゅうあるものではない。天才というのは、

ふだんから一生懸命に考えぬいている人のことで、ある瞬間にひらめきをつかんだ人のことをいう。（中略）湯川秀樹さんが、中性子理論を発見したのも、ふだんから一生懸命考えていた結果であって、たんなる思いつきではないだろう。暗中模索している最中に、ピカッと光るものにつき当たり、それが当たったのである。ただ、凡人はせっかくだけ価値あるものが眼前を通っても、それに気がつかないし、つかまえようもしない、ということはないだろうか。



岡崎嘉平太書 吉備中央町立大和小学校所蔵

失敗を重ねていると、どこかで本物にぶつかると。だから失敗をロスと考えるはいけぬ。私が新しいテクニックや技術開発に力を入れるのは、もちろん機械的なことが好きだったこともあるが、この“本物を発見すること”がうれしいからであり、それが人類にとつても貴いことだと信ずるからである。

―出典『二十一世紀へのメッセージ』（岡崎嘉平太先生の長寿を祝う会、一九八六（昭和六十二年）発行より抜粋）―

新任御挨拶 岡崎嘉平太記念館は、平成13年8月に開館以来、今年で15年目を迎えますが、その節目の年に館長に就任し、はや3ヵ月が経過しました。

私はこれまで教育や文化的な仕事に従事する機会もなく、また、岡崎嘉平太先生についても浅薄な知識しかありませんでしたが、就任後、「嘉平太が愛したふるさと岡山写真展」や岡崎嘉平太国際奨学財団が実施する奨学生研修の受け入れ、開館以来15回目となる「岡崎嘉平太がめざした世界平和への道を考える講演会」の開催などを通じて、嘉平太先生が遺された数々の偉大な功績や誰もが敬愛してやまない温かいお人柄と崇高さ、亡くなられるまでご壮健でご活躍されたこと等々、深く感銘を受けますとともに、嘉平太先生の研究や顕彰事業の一端に関わらせていただける喜びと責任の重さを痛感しております。

前述しましたように記念館は今年で15周年を

迎えることとなりましたが、これもひとえに、ご遺族をはじめ、岡山県並びに吉備中央町の皆様や多くの方々のご支援、ご協力の賜物と深く感謝申し上げる次第です。

これからも嘉平太先生が希求されたアジアの平和、日中友好、そして「信はたて糸 愛はよこ糸 織り成せ人の世を美しく」という高い志を一人でも多くの方々に知っていただけるよう、また、一人でも多くの方々にご来館いただけるよう、職員一同より一層努めてまいりますので、今後ともご指導、ご協力をよろしくお願いいたします。（勝野 将之）



6/3の岡崎嘉平太国際奨学財団の来館研修で撮影。後列の右から4人目が勝野館長、後列左端が小林、右隣が初岡学芸員。

新任御挨拶 皆さま初めまして。私は、この4月から岡崎嘉平太記念館で働くことになりました。7月末より当館学芸員の初岡が産休に入るため、代理としてまいりました。記念館に勤めて3ヶ月、記念館を支えて下さっている皆さま、ご来館してくださるお客様、吉備中央町の地域の方々との嬉しいご縁があり、充実した毎日を過ごしています。そして、岡崎嘉平太先生の信念を全うされた人生を通して、自分

が学ぶことの多さに日々感動しています。

私は、大学時代に日本史を専攻し、その後はアパレル会社で7年程働いていました。趣味はサッカー観戦、史跡巡り、美味しいものを食べる事です。

至らない部分が多々あると思います。岡崎嘉平太先生のご功績、魅力をさらに多くの方にお伝えできるよう勉強して参りますので、皆さまご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。（小林 菜美）

嘉あちゃんのふるさとでふれあい座談会の開催

2月7日、吉備中央町ロマン高原かよう総合会館で嘉あちゃんのふるさとでふれあい座談会＆吉備中央町中学生国際交流研修団報告会(町国際化推進協会と共催で)を開催しました。70名の参加者がありました。

まず国際交流研修団報告会では、昨年8月17～22日の中国・淮安市でのホームステイを中心とした視察研修を行った中学生8名らが、発表を行い、密度の濃い友好交流の様子に感心しました。

吉備中央町と淮安市は、嘉平太氏と周恩来総理の故郷で、お二人の親交を縁に友好交流が始まり、

1996年から隔年で中学生がホームステイをしながら、現地の学校との交流や視察を行う相互交流をしています。

続いての座談会では、白髭克浩岡山県立岡山朝日高等学校教諭を迎え、「海外での交流体験をどう生かすか」というテーマでご講演くださいました。生徒らに向けて、「体験を語り継ぐこと」、「体験できる立場や資格を与えてくれた周りに感謝し、自らでできることで世の中に貢献することを続けることが大切」と語られました。先生自らの体験に基づいた素晴らしい講演を記念館ホームページ上で閲覧できます。

第10回 嘉平太が愛したふるさと岡山写真展の開催

嘉平太氏が愛したふるさと岡山のよさを伝えたいという思いで、毎年公募による写真展を開催しています。今回の応募数は、145点でした。

最優秀賞は、豊福義一さんの『見晴らし』



平成28年4月23日(土)に、長瀬正己先生(山陽新聞社写真映像部)、森山知己先生(日本画家)、勝野(岡崎嘉平太記念館館長)で厳正な審査をしました。入賞者及び作品は、次の通りです(敬称略)。最優秀賞》豊福義一「見晴らし」。優秀賞》野津裕一「花吹雪」、最相政実「吉備路残照」。審査員特別賞》栗村薫清「お供衆の舞い」、福島一郎「原皮師」、三宅宏明「萌える」。入選》伊丹弘吏「彼岸花の咲く頃」、片山 操「宴」、河口 毅「水鳥の楽園」、小島浩義「うらじゃを踊る少女」、斎藤雄幸睦「ベンガラの町幻想的に」、高見卓男「母子愛」、内藤 清「天空に咲く」、藤井康男「夕暮れの四ッ手網漁」、虫明郁代「祈願」、柳田愛子「秋恋し」。

表彰式

5月15日(日)に表彰式を行いました。出席くださった皆様と記念写真を撮りましたので、ご紹介します。



前列左から、三宅様、野津様、長瀬先生、豊福様、岡山県郷土文化財団杉原常務、最相様、栗村様。後列左から、福島様、伊丹様、片山様、小島様、斎藤様、藤井様、虫明様、柳田様、勝野館長

表彰式での長瀬審査員の講評(抜粋)

全体的に応募作品の質が毎年向上しており、どの作品をとっても入賞作品との差はそうない。その中でも入賞としたのは、絵になっている、雰囲気がある、インパクトがある、という観点で選んだ。最優秀賞作品は、すっきりと気持ちよさが漂う。無理して絵にしようという気持ちがない。瀬戸内海の風景らしさが素直に表現されている。

本写真展は、嘉平太が愛したふるさと岡山の風景というテーマで募集しているので、日々の暮らしや何度目も見ている景色とじっくり向き合った作品が多いし、それこそが本展の素晴らしさだと思う。写真を撮られる人は全国、海外へとモチーフを求めて飛び回っておられるが、それでは、じっくり被写体に向き合うことができないと思う。受賞された方々は、岡山の写真界を牽引しておられる方で、今後もしリーダーとして写真愛好家の層を増やすべく、ますます尽力してほしい。

作品の展示



▲岡山県天神山文化プラザでの展示の様子

全応募作品を4/29～7/3は当記念館で、7/19～7/24には岡山市北区の岡山県天神山文化プラザで展示しました。あわせて2,712名の来場者がありました。

来場者の感想より

- ・撮る方それぞれの視点、テーマが興味深く、力作ばかりで、毎回楽しみに拝見している。
- ・たくさんの作品が、一堂にみられるのがよい。
- ・有名でなくてもすばらしい場所があるのだとわかった。
- ・身近な風景が多いが、もう一度訪ねてみたいと思わされた。ますます岡山がすきになった。
- ・撮影方法や工夫も様々で、技術的にも勉強になった。

岡崎嘉平太国際奨学財団26期生来館

6月3日、岡崎嘉平太国際奨学財団第26期奨学生4人らが岡崎嘉平太氏のふるさと・吉備中央町を訪れました。岡崎嘉平太国際奨学財団は、嘉平太氏の遺志“アジア諸国の人づくりを支援し、相互理解と国際交流を推進し、世界平和と発展に寄与すること”を継承するために、ANAが中心となり1990（平成2）年に設立。毎年アジア諸国から日本留学を希望する優秀な青年を日本に招き、大学院修士課程の学費を負担、さらに奨学金を支給する等の支援を行っており、卒業生は100名を超え、様々な分野、国々で活躍しています。

嘉平太氏の母校・大和小学校で笑顔があふれる交流

まず、嘉平太氏の母校・大和小学校では、5,6年生と給食をともにし、全校児童との交流会でゲームなどを通じふれ合いました。各学年の児童が手作りで用意してくれた、心あたたまるお土産をもらいました。



▲テレビカメラの取材も

大和小学校
全員で一緒に



嘉平太先生の墓参と桜の記念植樹

その後は、嘉平太氏の墓参、大和山（おおわさん）での桜の記念植樹を行い、嘉平太氏の故郷の方と交流を深めました。特に大和山・野山の会には、水やりや下草刈りなど桜の管理でお世話になっています。



▲ 植樹の様子



▲ 大和山・野山の会の方と
前列左から2人目は、岡崎嘉平太国際奨学財団の西原明法評議委員

第26期奨学生のお名前は、Chan See Theng さん（マレーシア）、程銘さん（中国）、万静羽さん（中国）、Nguyen Thi Thuy Linh さん（ベトナム）です。優秀で、真面目で、チャーミングな印象の女性でした。

ますますのご活躍をいつも祈念しています。



▲ 児童に贈られた兜



生涯学習に生かしてほしい！それから、若い人、こどもたちを記念館へ呼ぼう！

嘉平太氏の生き方や言葉は、現代の私たちの心に深く響きます。日本人に脈々と受け継がれている価値、良き真面目な日本人の姿と重なり合い、感動するのだと思います。氏の功績や志を伝える絶好の機会ととらえ、出前講座や来館講座を積極的に

承っています。ご利用いただけると幸いです。



編集・発行：岡崎嘉平太記念館

〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川4860-6 きびプラザ内

TEL 0866-56-9033 FAX 0866-56-9066

ホームページ <http://www.okazaki-kaheita.jp>

Eメール okmh@okazaki-kaheita.jp

2016年7月発刊